

[原 著]

首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力に関する研究

富田 幸博*

(2005年10月31日受付, 2006年1月23日受理)

Abilities Needed for Local Sports Coaches in the Metropolitan Area to Perform Their Duties

Yukihiro TOMITA

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology is carrying out a model project for the "Development of Comprehensive Community Sports Clubs" as a new sports promotion policy for the 21st century. In Japan today, weakening of community consciousness and lack of communication among community members have emerged as problems. Therefore, in coaching of local residents in lifetime sports activities, not only coaching in sports and training but also guidance for the development of the community and human relations such as guidance in "making friends" and "sharing time and experience" is needed.

In this study, the structure of abilities needed for local sports coaches to perform their duties was evaluated for working out a curriculum for the training of coaches who can meet the needs of local sports coaching situations.

The abilities to perform duties were evaluated with regard to the competency and human factors, and an investigation was performed in local sports coaches in Yokohama City by the competency-based approach.

The results indicated that local sports coaches in the metropolitan area are required to be competent in 5 areas, i.e., "ability to collect and analyze information concerning social trends", "knowledge about the body and health science", "ability to deal with sports rules and risks", "ability in sports management", and "communication ability" and that they occupy 55.5% of the abilities needed to perform their duties. Among human factors of local sports coaches, philosophical background, considerateness, friendliness, and expressiveness are important, but religious orientation, local background, or appearance was not regarded as important. Also, the human factors are considered to account for 44.5% of the competency of local sports coaches to perform their duties.

Key words: Local sports coaches, Abilities to perform duties, Competency, Human factors, Hospitality management

キーワード: 地域スポーツ指導者, 職務遂行能力, コンピテンシー, 人的要素, ホスピタリティマネジメント

I. 目 的

21世紀に向けた新たなスポーツ振興施策として、文部科学省(旧文部省)は、平成7年度から「総合

型地域スポーツクラブ育成」をモデル事業として進め、「今後、わが国も総合型地域スポーツクラブの育成・定着に向けたなお一層の支援を図らなければな

* 体育経営管理学研究室

らない¹⁾」との方針のもと、平成10年度からは、この事業の定着と推進に向けた施策が講じられてきている。特に近年は、少子高齢化社会の進展、生活環境の利便性向上に伴う身体活動の減少、コミュニティ感情の希薄化、人と人とのコミュニケーション不足などが指摘されている。今後も日常生活における身体活動が減少していくことを考えれば、21世紀に活力のある社会を維持していくためには、地域住民が主体的にスポーツに取り組むことが極めて重要であると考えられている。

またスポーツ（運動を含む）を生活の中に位置づけ、欠かせない文化として、市民生活に根づかせることは、活力のある健康的な地域社会を実現していくことにつながるものと考えられる。そのため地域社会における生涯スポーツの指導においては、スポーツやトレーニングに関する指導のみならず、「仲間づくり」「交流」といった地域づくり（コミュニティ形成）や人間関係形成をも目的のひとつとした指導が展開されることが求められる。したがって地域スポーツ指導者の養成においては、これらのことも含めて、現場で必要とされているカリキュラムを策定することが必要である。

これまでに、笹山・中西の研究²⁾によって、地域スポーツ指導者と商業スポーツ指導者の、指導者としての適性や資質の違いが明らかにされた。またこの研究は、スポーツ指導者の職務遂行能力をコンピテンシーと人的要素という点から捉え、貴重な示唆を与えているものとして注目される。しかしながらこの研究は、地方都市の地域スポーツ指導者を対象としたものであるが、首都圏と地方都市とは生活環境が大きく異なると考えられる。

本研究では、地域スポーツの指導現場からの要請に応じた指導者養成カリキュラムの策定を目指し、首都圏と地方都市の地域における地域スポーツ指導者の職務に対する専門性を比較検討することを視野に入れ、横浜市に在住する「地域スポーツ指導者」を対象として「Competency-Based Approach」を適用し、首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力の構造について、明らかにすることを目的とした。

II. 本研究の枠組み

本研究においては、笹山・中西の研究²⁾における

概念を援用して、地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力を、コンピテンシーと人的要素という2つの点で捉えるものとする。

ここでコンピテンシーとは、「カリキュラムによってその開発・向上が可能である専門的な能力²⁾」を指すものである。笹山・中西²⁾はスポーツ指導者のコンピテンシーを「スポーツ経営力」、「スポーツに関する知識」、「実技・指導能力」、「コミュニケーション能力」の4つの次元から構成されるものとして捉えた。

一方、発展可能な専門的能力であるコンピテンシーに対して、その基盤となる人間性が近年、特に観光産業に代表されるサービス産業を中心に注目を集めている。スポーツ指導の現場においても、スポーツ指導者と消費者との間で直接的な接触が行われていることから、スポーツ指導は、スポーツ指導者と消費者との相互作用関係によって展開されているといっても過言ではない。そこで本研究では、サービス産業の領域において注目されているような、ホスピタリティ³⁾の概念に着目し、ホスピタリティを構成する「人的要素群」、「物的要素群」、「創造的要素群」、「機能的要素群」という4つの要素群のうち、「相手方、客、来訪者に示す人的に提供される態度的、儀礼的、人格的なものの適切さ、感じの良さによって与える精神的満足を生み出す要素群³⁾」を意味する人的要素群を、スポーツ指導者の人間性を表す人的要素として援用する。人的要素群は、「態度的要素」、「儀礼的要素」、「人格的要素」の3要素からなっている⁴⁾。

III. 方法

本研究では、首都圏における地域スポーツ指導者として、横浜市在住の地域スポーツ指導者を調査対象とした。平成16年10月に教育委員会生涯学習課を通じて地域スポーツ指導者に質問紙を配布してもらい、後日、教育委員会生涯学習課にて回収をしていただいた。配布は600票で、584票(97.3%)の有効回答を得た。

調査票には、調査項目としてデモグラフィック特性、地域スポーツ指導者のコンピテンシー構造、地域スポーツ指導者に求められる人的要素に関する項目を設けた。地域スポーツ指導者が現場で必要としているコンピテンシーの構造を明らかにするため

表1 コンピテンシーの次元と質問項目

次元	項目番号	質問項目内容	
スポーツ経営力	24	対象者によりよいスポーツ活動を提供するための知識	
	25	スポーツ活動(教室やイベント)を企画・運営する能力	
	26	スポーツ活動(教室やイベント)を広報していく能力	
	33	スポーツに関する新しい情報(技法, 戦略・戦術, ルール等)について収集・分析する能力	
	34	コンピュータを使う能力	
	35	対象者のスポーツニーズを知るための社会調査を実践する能力	
	36	調査結果や書物のデータを指導に活かしていく能力	
スポーツに関する知識	3	人間の骨格や筋肉の構造とその働きに関する知識	
	4	スポーツ行政の仕組みおよび組織機構に関する知識	
	5	スポーツと食事(栄養源)との関係に関する知識	
	6	テーピングの実施方法に関する知識	
	7	マッサージの実施方法に関する知識	
	8	対象者の健康や体力に合わせた運動内容や方法を組み立て, 実践する能力	
	9	各種スポーツに必要な筋肉の働きに関する知識	
	10	トレーニングの科学的な基礎知識と方法に関する知識	
	11	負傷した場合の応急手当に関する知識	
	13	各種スポーツの歴史に関する知識	
	14	スポーツとメンタル面との関係に関する知識	
	15	外力や局所的疲労による身体の損傷に関する知識	
	16	人間の成長・発達や加齢に伴う身体の変化に関する知識	
	18	スポーツ事故の事後処理に関する知識	
	19	安全指導に関する知識	
	27	スポーツと禁止薬物に関する知識	
	32	スポーツに影響を及ぼす社会的な動向を把握する能力	
	実技・指導能力	12	スポーツ全般のルールに関する知識
		17	各種スポーツの審判法に関する知識
20		各種スポーツの指導理論と方法に関する知識	
22		幅広いスポーツの実践能力および示範能力	
23		専門的で高度な実技能力および示範能力	
21		障害者スポーツの指導法に関する知識	
コミュニケーション能力	1	対象者とのコミュニケーション能力	
	2	対象者のスポーツ技術のレベルや健康・体力の状況を把握する能力	
	28	他の諸団体とのコミュニケーション能力	
	29	公文書や依頼文書などを作成する能力	
	30	指導者らしい正しい言葉づかい	
	31	対象者や他の諸団体と接する場合の礼儀や作法	

笹山普寛・中西純司:「スポーツ指導者のコンピテンシーの構造—地域スポーツ指導者と商業スポーツ施設指導者との比較—」. 福岡教育大学卒業論文, 1999より転載

表2 人的要素の因子と質問項目

要素	因子	質問項目内容
態度的要素	表現因子	対象者に対する好意的な表情や言葉づかい, 会話, 態度
	外観因子	対象者が好感をもてるような身だしなみや服装
	動作因子	対象者が好感を持てるような立ち居振舞いや姿勢
	人間関係因子	対象者とのコミュニケーションによって生まれる親密さ
儀礼的要素	行動様式因子	対象者に対する礼儀作法やマナー
	民族因子	その他地域独特の習慣や風土に基づいて行動すること
	宗教因子	冠婚葬祭など宗教的な習わしや信仰, 教義に基づいて行動すること
人格的要素	人間性因子	人柄や気品, 教養, 温かみといった人間性
	精神活動因子	対象者への十分な気配りや気づかい
	道徳因子	社会一般に承認されている規範を遵守すること
	能動性因子	善意, 熱意, 創意, 厚意, 真意, 決意といった考えや気持ち
	根本原理因子	物事に対する根本的な判断や行動を示すこと

笹山普寛・中西純司:「スポーツ指導者のコンピテンシーの構造—地域スポーツ指導者と商業スポーツ施設指導者との比較—」. 福岡教育大学卒業論文, 1999より転載

に, 笹山・中西²⁾が財団法人日本体育協会のスポーツ指導者養成カリキュラムおよび大学におけるスポーツ関連コースのカリキュラムをもとに作成した, 4次元36項目からなる質問項目を採用した。表1に笹山・中西²⁾による質問項目の分類を示す。コンピテンシーに関する設問では, 各項目に対し「全く必要ない」, 「あまり必要ない」, 「どちらでもない」, 「少し必要である」, 「非常に必要である」の5段階で評価してもらった回答形式とした。

上述したように本研究では, 「態度的要素」「儀礼的要素」「人格的要素」の3要素を含む人的要素群をスポーツ指導者に求められる人的要素として捉えている。したがって地域スポーツ指導者に求められる人的要素に関する質問項目として, 本研究と同様に服部³⁾の定義を援用した笹山・中西²⁾による分類を採用し, 表2に示すように, 3要素12項目を設定した⁵⁾。調査対象者には, これら12項目の中から, 指導者として重要視している項目上位3項目を, 第1位から第3位まで順に回答してもらった。

調査結果については, 地域スポーツ指導者のコンピテンシー構造は因子分析(主因子法, 斜交回転)を用い, 人的要素ではカイ2乗検定を用いて分析した。

調査対象者の基本的な属性は表3に示すとおり

である。

IV. 結果と考察

1. 首都圏の地域スポーツ指導者に求められるコンピテンシー

分析の結果, 首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力に関して, 5つの因子が抽出された。因子分析の結果は表4に示すとおりである。

第一因子は, スポーツに関連する幅広い情報を収集し, 知識として蓄える能力に関する項目が多いことから「社会動向・情報収集分析能力」, 第二因子は, 主に人間の身体に関する知識であり「身体・健康科学に関する知識」, 第三因子は, スポーツのルールやけがに対する知識についての項目が多いことから「スポーツルール・リスク対応能力」, 第四因子は, スポーツ活動の企画・運営・広報に関する能力で構成されており「スポーツ経営能力」, 第五因子は, 主に対象者とのコミュニケーションや接し方に関する項目で構成されていることから「コミュニケーション能力」と命名することができる。

以上の5因子のうち, 「スポーツ経営能力」, 「コミュニケーション能力」は, 項目内容こそ異なるものの, 笹山・中西²⁾が作成した, 地域スポーツ指導者に必要とされるコンピテンシーの概念的モデルに

表3 調査対象者の基本的属性

項目	属性	回答数(%)
性別	男性	479 (82.0)
	女性	105 (18.0)
年齢	～29歳	1 (0.2)
	30～39歳	26 (4.4)
	40～49歳	158 (27.1)
	50～59歳	262 (44.9)
	60～69歳	118 (20.2)
	70歳～	2 (0.3)
	未記入	17 (2.9)
職業	商工自営業	47 (8.0)
	会社員	289 (49.5)
	教員	7 (1.2)
	公社、公務員	52 (8.9)
	農林漁業	2 (0.3)
	自由業	19 (3.3)
	サービス業	9 (1.5)
	専業主婦	46 (7.9)
	パート主婦	41 (7.0)
	無職	26 (4.5)
	その他	24 (4.1)
	未記入	22 (3.8)
	最終学歴	体育系の高校卒業
体育系以外の高校卒業		253 (43.3)
体育系の短期大学卒業		1 (0.2)
体育系以外の短期大学卒業		35 (6.0)
体育系の4年制大学卒業		2 (0.3)
体育系以外の4年制大学卒業		155 (26.5)
体育系の大学院修了		1 (0.2)
体育系以外の大学院修了		4 (0.7)
社会体育関係の専門学校卒業		2 (0.3)
社会体育関係以外の専門学校卒業		32 (5.5)
その他		50 (8.6)
未記載		38 (6.5)
指導歴	～1年	4 (0.7)
	1～9年	220 (37.7)
	10～19年	177 (30.3)
	20～29年	98 (16.8)
	30～39年	21 (3.6)
	40年～	1 (0.2)
	未記入	63 (10.7)

もみられる分類項目である。

一方、4次元に分類した笹山・中西²⁾の概念的モデルに対し、本研究の結果からは5つの因子が抽出された。このことは、首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力が多岐にわたっており、職務遂行能力の構造の複雑化が進行している様子を示しているといえる。

抽出された5因子のうち、「社会動向・情報収集能力」の因子の寄与率が40.8%と5因子中、最も高い値で、累積寄与率のうちの73.5%を占めている。したがって首都圏における地域スポーツ指導の現場において指導者たちが、スポーツや身体に関する専門的な知識よりも、社会動向についてもさまざまな資料やコンピュータを用いて、幅広く情報を収集する能力を重視しているといえる。

これに対し「コミュニケーション能力」の因子寄与率は2.4%で、累積寄与率のうちの4.3%にとどまっている。首都圏における地域スポーツ指導の現場において、対象者とのコミュニケーション能力は重要ではあるものの、他の因子と比較すると、その重要性はそれほど高くないと評価されているのである。

本研究によって抽出された5つの因子による累積寄与率は、55.5%であった。したがって地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力のうち、カリキュラムによって発展可能なコンピテンシーの領域は55.5%であり、残りの44.5%を、指導者の人間性を意味する人的要素が占めているものと考えられる。

2. 首都圏の地域スポーツ指導者に求められる人的要素

地域スポーツ指導者に求められる人的要素に関する調査結果を、表5に示す。調査の結果、指導者として重視している人的要素として第1位にあげられた項目のうち、哲学性および配慮性が多数であった。首都圏における地域スポーツ指導者には、配慮性や哲学性といった人格的要素が第一に重要であると考えられているのである。

また表5の右側には、重要であると回答された数の、第1位と第2位、第1位から第3位までの合計回答数を示した。この結果から、態度的要素に含まれる親密性や表現性が、上述した哲学性や配慮性に次いで重要であると認識されている様子が伺える。

表4 コンピテンシーの因子分析結果

項目番号	質問項目内容	因子負荷量				
		F1	F2	F3	F4	F5
35	対象者のスポーツニーズを知るための社会調査を実践する能力	0.950				
34	コンピュータを使う能力	0.838				
36	調査結果や書物のデータを指導に活かしていく能力	0.835				
32	スポーツに影響を及ぼす社会的な動向を把握する能力	0.704				
13	各種スポーツの歴史に関する知識	0.665				
27	スポーツと禁止薬物に関する知識	0.643				
33	スポーツに関する新しい情報(技法, 戦略・戦術, ルール等)について収集・分析する能力	0.601				
29	公文書や依頼文書などを作成する能力	0.519				
14	スポーツとメンタル面との関係に関する知識	0.456				
22	幅広いスポーツの実践能力および示範能力	0.431				
20	各種スポーツの指導理論と方法に関する知識	0.422				
23	専門的で高度な実技能力および示範能力	0.359				
28	他の諸団体とのコミュニケーション能力	0.323				
5	スポーツと食事(栄養源)との関係に関する知識		0.826			
7	マッサージの実施方法に関する知識		0.772			
3	人間の骨格や筋肉の構造とその働きに関する知識		0.753			
9	各種スポーツに必要な筋肉の働きに関する知識		0.751			
6	テーピングの実施方法に関する知識		0.716			
10	トレーニングの科学的な基礎知識と方法に関する知識		0.481			
16	人間の成長・発達や加齢に伴う身体の変化に関する知識		0.409			
4	スポーツ行政の仕組みおよび組織機構に関する知識		0.397			
8	対象者の健康や体力に合わせた運動内容や方法を組み立て, 実践する能力		0.386			
17	各種スポーツの審判法に関する知識			0.897		
18	スポーツ事故の事後処理に関する知識			0.832		
12	スポーツ全般のルールに関する知識			0.705		
19	安全指導に関する知識			0.705		
11	負傷した場合の応急手当に関する知識			0.649		
15	外力や局所的疲労による身体の損傷に関する知識			0.366		
21	障害者スポーツの指導法に関する知識			0.357		
24	対象者によりよいスポーツ活動を提供するための知識			0.247		
26	スポーツ活動(教室やイベント)を広報していく能力				0.901	
25	スポーツ活動(教室やイベント)を企画・運営する能力				0.843	
1	対象者とのコミュニケーション能力					0.741
2	対象者のスポーツ技術のレベルや健康・体力の状況を把握する能力					0.602
31	対象者や他の諸団体と接する場合の礼儀や作法					0.520
30	指導者らしい正しい言葉づかい					0.462
固有値		12.725	10.381	11.448	6.682	7.632
因子寄与率		40.8	5.8	3.7	2.8	2.4
累積因子寄与率		40.8	46.6	50.3	53.1	55.5
Cronbach's α 係数		0.911	0.906	0.874	0.917	0.748

表5 人的要素の調査結果

要素	質問項目内容	回答数				
		1位	2位	3位	合計 (1位と2位)	合計 (1位~3位)
態度的要素	対象者に対する好意的な表情や言葉づかい, 会話, 態度 <表現性>	48	66	83	114	197
	対象者が好感をもてるような身だしなみや服装 <外見性>	13	18	8	31	39
	対象者が好感を持てるような立ち居振舞いや姿勢 <好感性>	29	43	29	72	101
	対象者とのコミュニケーションによって生まれる親密さ <親密性>	54	102	161	156	317
儀礼的要素	対象者に対する礼儀作法やマナー <行動様式性>	42	40	35	82	117
	その他地域独特の習慣や風土に基づいて行動すること <地域性>	15	13	9	28	37
	冠婚葬祭など宗教的な習わしや信仰, 教義に基づいて行動すること <宗教性>	1	1	0	2	2
人格的要素	人柄や気品, 教養, 温かみといった人間性 <人間性>	52	67	56	119	175
	対象者への十分な気配りや気づかい <配慮性>	91	85	69	176	245
	社会一般に承認されている規範を遵守すること <倫理性>	51	26	32	77	109
	善意, 熱意, 創意, 厚意, 真意, 決意といった考えや気持ち <主体性>	45	39	23	84	107
	物事に対する根本的な判断や行動を示すこと <哲学性>	105	47	39	152	191

(1位から3位まで) $\chi^2=137.305$ ($p<.001$, $d.f.=22$)

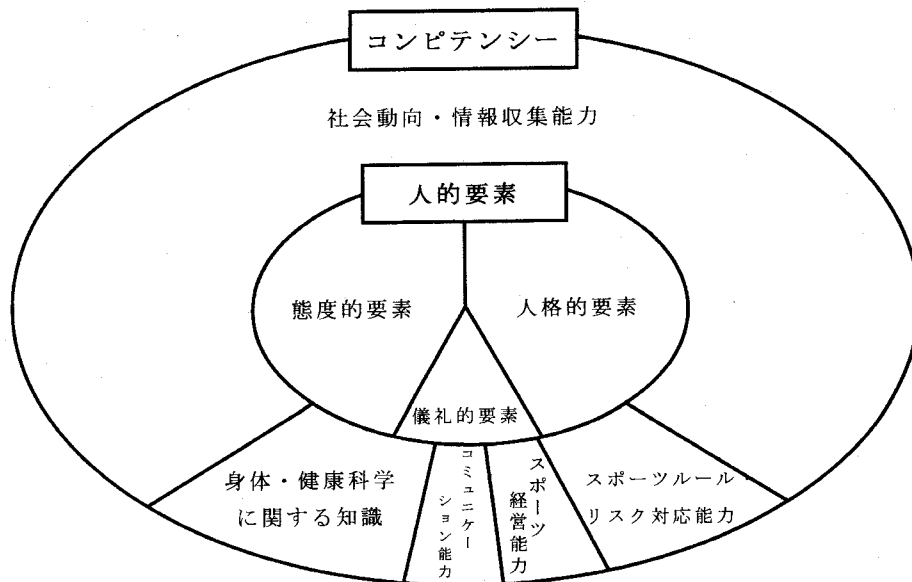


図1 首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力の構造

一方, 人的要素を構成する3要素のうち, 儀礼的要素については全体的に回答数が少なく, 中でも宗教性が重要であるとの回答はほとんどみられなかった。

また外見性と並んで, 地域性を重要な要素として挙げた回答が少なかったことは, 人と人とのつながりやコミュニティ意識が希薄になってきたといわれている首都圏を活動地域としている指導者たちの特

徴といえるかもしれない。

3. 首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力の構造

以上の調査結果をもとに、首都圏における地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力を図で表したものが図1である。なお図1において、寄与率および百分率をもとに各要素の重要度を考慮し、面積の大きさに反映させた。首都圏において地域スポーツ指導者の養成カリキュラムを作成する際には、求められる職務遂行能力が図1のような構造であることを理解しておく必要がある。

V. 結 論

本研究では、首都圏の地域スポーツ指導者に求められる職務遂行能力の構造について、コンピテンシーと人的要素の2点から検討を加えた。

その結果、首都圏の地域スポーツ指導者には「社会動向・情報収集分析能力」、「身体・健康科学に関する知識」、「スポーツルール・リスク対応能力」、「スポーツ経営能力」、「コミュニケーション能力」という5つのコンピテンシーが求められており、それらは職務遂行能力のうち55.5%を占めていることが明らかとなった。

また、首都圏の地域スポーツ指導者に求められる人的要素の3要素は、「人格的要素」、「儀礼的要素」、「態度的要素」の順に重要視されており、なかでも哲学性や配慮性、親密性、表現性が首都圏における地域スポーツ指導者の人的要素として重要であり、宗教性や地域性、外見性はそれほど重要視されていないことが明らかとなった。人的要素が、職務遂行能力のうちコンピテンシーを除いた44.5%を占めているといえる。

本研究では、首都圏の地域スポーツ指導者を対象として調査を行った。今後は指導者の競技歴や指導歴といった属性や日常の活動状況をも踏まえながら、本研究と同様の調査を商業スポーツ施設の指導者に対しても実施し、また首都圏以外の地域における地域スポーツ指導者や商業スポーツ施設の指導者に対して実施した同様の調査結果などと比較検討することで、それぞれに求められる職務遂行能力の特徴を明確にしていきたい。

注記および引用

- 1) 保健体育審議会答申平成9年。
- 2) 笹山普寛・中西純司：「スポーツ指導者のコンピテンシーの構造—地域スポーツ指導者と商業スポーツ施設指導者との比較—」。福岡教育大学卒業論文，1999。
- 3) ここでいうホスピタリティとは、「人類が生命の尊厳を前提とした創造的進化を遂げる為の、個々の共同体もしくは国家の枠を超えた広い社会における多元的共創関係を成立させる相互容認、相互理解、相互信頼、相互扶助・相互依存、相互発展の6つの相互性の原理を基盤とした基本的社会倫理である」（服部勝人著：『ホスピタリティ・マネジメント—ポストサービス社会の経営—』。丸善，1996）と定義される。
- 4) コンピテンシーがカリキュラムによって発展可能であるのに対し、人的要素はその基盤となる人間性を指す。したがってコンピテンシーは「次元」に分類され、各次元において量的に検討されるが、人的要素群は「要素」に分類されて量的には検討されない。
- 5) コンピテンシーに関する質問項目と人的要素に関する質問項目とをみると、いくつかの項目において内容が類似しているようにも捉えられる。しかしながら本論文において繰り返し述べているとおり、指導者に求められる人間性について質問している人的要素の項目に対し、コンピテンシーの項目では、地域スポーツ指導の現場で必要とされる専門的能力について質問したものであり、このことは設問にも明記されている。

参考文献

- (1) アンダーセン著：『図解コンピテンシーマネジメント』。東洋経済新報社，2002。
- (2) 本寺大志著：『コンピテンシーマネジメント』。日経連出版部，2000。
- (3) ライル M. スペンサー著、梅津祐良・成田攻・横山哲夫訳：『コンピテンシー・マネジメントの展開』。生産性出版，2001。
- (4) 田中 滋・渡辺俊一・綱島邦夫著：『正しいコンピテンシーの使い方』。PHP 研究所，2001。
- (5) 武野 昭著：『人と組織を変える コンピテンシー入門』。オーエス出版社，2000。
- (6) 遠藤 仁著：『会社を強くする人材マネジメント コンピテンシー戦略の導入と実践』。かんき出版，2000。
- (7) 日本賃金研究センター編：『コンピテンシー

- 概念に基づく日本型人事の改新とその設計』
経営書院, 2001.
- (8) 太田隆次著:『アメリカを救った人事革命コ
ンピテンシー』, 経営書院, 2000.
- (9) 桑野 豊・佐伯聡夫編著:『現代スポーツ指
導者論』, ぎょうせい, 1985.

地域スポーツ指導者

おねがい

この調査は、スポーツ指導に携わっておられる指導者の方々にご意見を伺うためのものです。指導者の方々のご意見を伺うことにより、スポーツ指導者の現状を把握するとともに、現場で必要とされる知識や能力とは何か、現場の要望を組み入れてどのような指導者養成を行えばよいかを明らかにしようと考えています。調査票の内容は統計的に処理し、指導者個人のお答えを公表することは全く致しませんし、悪用されることのないように細心の注意を払います。

つきましては、本調査の趣旨をご理解いただいた上で、ごめんでもう、何卒調査にご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

ご多忙の折、誠に恐縮ですが何卒よろしくお願い申し上げます。

日本体育大学 富田幸博

I 日頃の活動状況についてお答えください。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○印を付けて下さい。

また、選んだ項目に（ ）がある場合には必要事項を記入してください。

- 1) 指導の回数： 1. 月に1回 2. 月に2～3回 3. 週に1回 4. 週に2～3回
5. 週に4～5回 6. ほとんど毎日 7. 指導をしない 8. 年に1～2回
- 2) 1回の指導時間： 1. 1時間以下 2. 1～2時間 3. 2～3時間 4. 3～4時間
5. 4時間以上
- 3) 主な指導日： 1. 平日 2. 土曜日 3. 休日 4. 曜日に関係なくほとんど毎日
- 4) 主な指導時間帯： 1. 早朝 2. 午前 3. 午後 4. 夕方 5. 夜間
- 5) 主な対象者： 1. 乳児 2. 幼児 3. 小学生 4. 中学生 5. 高校生 6. 大学生
7. 成人 8. 婦人 9. 妊婦 10. 高齢者 11. 障害者
- 6) 対象者の競技水準： 1. 健康づくり・仲間づくり志向で非競技志向である
2. 定期的に練習し、親善試合を行うぐらいである
3. 定期的に練習し、市・郡回大会に出場する
4. 対外試合を重視し、県大会以上の試合に出場する
5. 主に全国大会や国際大会に出場する
6. その他（ ）
- 7) 主に指導する範囲： 1. 小学校校区 2. 中学校校区 3. 行政区内 4. 市内全域
5. 県内全域 6. 全国
- 8) 指導で主に利用する施設： 1. 学校施設 2. 公共スポーツ施設 3. 職場施設
4. 商業（営利）施設 5. 民間非営利施設 6. 公園・広場
7. その他（ ）
- 9) 現在、継続的に指導しているスポーツ関係のクラブやサークル（指導活動を行うための基盤）はありますか。

1. ある 2. ない



それはどのようなグループですか。

1. 地域関係 2. 種目別団体関係 3. 学校関係 4. 職場関係
5. その他 ()

10) 主にどのような種目を指導していますか。

() () ()

II 指導者として職務を遂行していくために、下記に挙げる専門的能力はどのくらい必要ですか。それぞれの項目について5段階で評価し、**あてはまる番号に○印**を付けて下さい。

	1	2	3	4	5
	全く	あまり	どちらでも	少し	非常に
	必要ない	必要ない	ない	必要である	必要である

- | | | | | | | |
|--------------------------------------|-------|---|---|---|---|---|
| 1) 対象者とのコミュニケーション能力 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 対象者のスポーツ技術のレベルや健康・体力の状況を把握する能力 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 人間の骨格や筋肉の構造とその働きに関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) スポーツ行政の仕組みおよび組織機構に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) スポーツと食事(栄養源)との関係に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) テーピングの実施方法に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) マッサージの実施方法に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 対象者の健康や体力に合わせた運動内容や方法を組み立て、実践する能力 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) 各種スポーツに必要な筋肉の働きに関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) トレーニングの科学的な基礎知識と方法に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 負傷した場合の応急手当に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12) スポーツ全般のルールに関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13) 各種スポーツの歴史に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14) スポーツとメンタル面との関係に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15) 外力や局所的疲労による身体の損傷に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16) 人間の成長・発達や加齢にともなう身体の変化に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17) 各種スポーツの審判法に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18) スポーツ事故の事後処理に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19) 安全指導に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20) 各種スポーツの指導理論と方法に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21) 障害者スポーツの指導法に関する知識 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22) 幅広いスポーツの実践能力および示範能力 | _____ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

23) 専門的で高度な実技能力および示範能力	_____	1	2	3	4	5
24) 対象者によりよいスポーツ活動を提供するための知識	_____	1	2	3	4	5
25) スポーツ活動(教室やイベント)を企画・運営する能力	_____	1	2	3	4	5
26) スポーツ活動(教室やイベント)を広報していく能力	_____	1	2	3	4	5
27) スポーツと禁止薬物に関する知識	_____	1	2	3	4	5
28) 他の諸団体とのコミュニケーション能力	_____	1	2	3	4	5
29) 公文書や依頼文書などを作成する能力	_____	1	2	3	4	5
30) 指導者らしい正しい言葉づかい	_____	1	2	3	4	5
31) 対象者や他の諸団体と接する場合の礼儀や作法	_____	1	2	3	4	5
32) スポーツに影響を及ぼす社会的な動向を把握する能力	_____	1	2	3	4	5
33) スポーツに関する新しい情報(技法、戦略・戦術、ルール等) について収集・分析する能力	_____	1	2	3	4	5
34) コンピュータを使う能力	_____	1	2	3	4	5
35) 対象者のスポーツニーズを知るための社会調査を実践する能力	_____	1	2	3	4	5
36) 調査結果や書物のデータを指導に活かしていく能力	_____	1	2	3	4	5

Ⅲ あなたが指導者になろうと思った動機は何ですか。あてはまるものを3つまで選び、番号に○印を付けて下さい。

1. スポーツが好きだから
2. スポーツの指導が好きだから
3. 地域や社会のために、何か貢献したいと思ったから
4. スポーツの指導を通して人との交流を深めたいと思ったから
5. スポーツをもっと普及させたいと思ったから
6. スポーツの指導を通して自分自身を成長させたいと思ったから
7. 生きがいを見いだせると思ったから
8. 指導者に向いていると思ったから
9. いままでの経験を活かせると思ったから
10. 周囲の勧めで
11. ただ何となく
12. その他 ()

Ⅳ 指導者として職務を遂行していくために、下記の知識や能力などがどのくらいの比率で必要だと思いますか。下記の5項目の合計を100%として、各項目の割合(%)を()の中に記入して下さい。

1. 肉の働きや構造、スポーツと食事との関係などの知識 _____ () %
2. スポーツの実技能力や指導能力 _____ () %
3. 人格、態度、マナーといった人間的な部分 _____ () %
4. 基礎体力や精神力 _____ () %
5. 指導計画を立案し、対象に応じたスポーツ活動を提供していくための能力 _____ () %

合 計 100 %

V あなたの指導活動をより充実させるため、あるいは対象者の要望に応えるためには、どのような内容の講習会・研修会が必要ですか。今後開催してほしい講習会・研修会の内容をお書きください。

VI 指導において、あなた自身は下記の項目をどのくらい重要視していますか。それぞれの項目について5段階でお答え下さい。あてはまる番号に○印を付けて下さい。

	1	2	3	4	5
	全く重要でない	あまり重要でない	どちらでもない	少し重要である	非常に重要である
1. 試合で勝つこと、あるいは良い成績を収めること	_____	_____	_____	_____	_____
2. 対象者がより高度な技術を身につけること	_____	_____	_____	_____	_____
3. 指導者としての名声を得ること	_____	_____	_____	_____	_____
4. 対象者にスポーツの楽しさや喜びを知ってもらうこと	_____	_____	_____	_____	_____
5. 対象者と、あるいは対象者同士の良好な人間関係を育むこと	_____	_____	_____	_____	_____
6. 自分の満足を得ること	_____	_____	_____	_____	_____
7. 指導による給料や謝礼金	_____	_____	_____	_____	_____
8. できない人を中心に指導を進めること	_____	_____	_____	_____	_____

VII 下記に挙げている人格的要素の中かち、指導者として重要視している項目の上位3つを選び、その番号を記入してください。

1. 対象者に対する好意的な表情や言葉づかい、会話、態度
2. 対象者が好感をもてるような身だしなみや服装
3. 対象者が好感をもてるような立ち居振る舞いや姿勢
4. 対象者とのコミュニケーションによって生まれる親密さ
5. 対象者に対する礼儀作法やマナー
6. その地域独特の習慣や風土に基づいて行動すること
7. 冠婚葬祭などの宗教的な習わしや信仰、その教義に基づいて行動すること
8. 人柄や気品、教養、温かみといった人間性
9. 対象者への十分な気配りや気づかい
10. 社会一般に承認されている規範を遵守すること
11. 善意、熱意、創意、厚意、真意、決意といった考えや気持ち、意志
12. 物事に対する根本的な判断や行動を示すこと

第 1 位
第 2 位
第 3 位

VIII あなた自身のことについて、以下の質問にお答えください。

- 1) 性別： 1. 男子 2. 女子
- 2) 年齢： () 歳
- 3) 最終学歴： 1. 体育系の高校卒業 2. 体育系以外の高校卒業
3. 体育系の短期大学卒業 4. 体育系以外の短期大学卒業
5. 体育系の4年制大学卒業 6. 体育系以外の4年制大学卒業
7. 体育系の大学院修了 8. 体育系以外の大学院修了
9. 社会体育関係の専門学校卒業 10. 社会体育関係以外の専門学校卒業
11. その他 ()
- 4) 指導暦： () 年
- 5) 特技種目： ()
- 6) 競技会出場経験： 1. 町・村大会 2. 市・郡大会 3. 県大会 4. 地方(ブロック)大会
5. 全国大会 6. 国際大会 7. なし
- 7) 職業： 1. 商工自営業 2. 会社員 3. 教員 4. 公社、公務員 5. 農林漁業
6. 自由業 7. サービス業 8. 専業主婦 9. パート主婦 10. 無色
11. その他 ()
- 8) 現在取得している資格について、あてはまる番号すべてに○印を付けて下さい。
1. 社会教育主事 2. 体育指導委員 3. 保健体育教員免許 4. 公認審判員
5. 日本体育協会公認指導員(文部省公認社会体育指導者を含む) 6. 有段者
7. 日本レクリエーション協会指導者 8. レクリエーション・コーディネーター
9. スポーツ少年団育成指導者 10. 健康運動指導士 11. ヘルスケア・トレーナー
12. その他 ()
- 9) スポーツリーダーバンクに登録していますか。I
1. はい 2. いいえ

ご協力ありがとうございました。